

## IMEBORON17 への参加報告

理学研究科 理学専攻 物質・生命化学領域 機能有機化学研究室  
博士前期課程 2年 服部泉

### 【出張先, 出張期間】

レンヌ, フランス 2023年7月8日から7月13日

### 【渡航目的】

国際学会「17th International Meeting on Boron Chemistry」に参加し、最先端のホウ素化学についての講演を聞き、今後の研究を進める上での糧となる知識を得る。ポスター発表でのディスカッションを通じて、今後の研究の展開に関する知見を得る。

### 【概要】

17<sup>th</sup> International Meeting on Boron Chemistry は、ホウ素クラスター、ホウ素を含む錯体、 $\pi$ 電子化合物、ホウ素を用いた反応に関する国際学会であり、コロナウイルスの流行による2回の延期を経て、6年ぶりに開催された。5日間を通して約180件の講演、口頭発表、ポスター発表が行われた。

### 【所感】

自身の専門分野に近い、ホウ素を含んだ $\pi$ 電子化合物に関する講演では、合成方法や、合成した分子の応用など、自身の研究に役立つような話が多くあり有意義だった。また、今までよく読んできた論文の著者の話を直接聞くことができ、感慨深かった。自身の研究分野と少し離れた、ホウ素クラスターやホウ素を含む錯体についての講演は、理解が難しい部分もあったが、自身の視野を広げる貴重な機会となった。特に印象深かったのは、30分ほど設けられていた coffee break と、立食形式で行われた lunch time だった。学生が積極的に先生に話しかけているなど活発な雰囲気でも、自身の研究での問題点や講演での疑問点などを直接先生に質問したり、日本、海外の学生と交流したりすることができ、国際学会の醍醐味を存分に味わった。ポスター発表では、ディスカッションを通して、今後もっと面白い分子をつくって世に出していきたいと感じ研究へのモチベーションが一層高まった。

貴重な機会を与えてくださった山口茂弘教授、トランスフォーマティブ生命化学融合研究大学院プログラム、また、今回の出張に関してご支援いただきました GTR 学生支援室の皆様へ深く感謝申し上げます。



(上) 学会会場  
(下) モンサンミッシェル